

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-74825

⑪ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)4月5日

B 65 H 1/12
B 41 J 13/10
B 65 H 31/26
G 06 K 15/16

310

A-7716-3F
2107-2C
8712-3F
7208-5B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 記録装置

⑮ 特 願 昭61-217057

⑯ 出 願 昭61(1986)9月17日

⑰ 発 明 者 寺 沢 弘 治 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
⑱ 出 願 人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
⑲ 代 理 人 弁理士 谷 義 一

明 細 書

1. 発明の名称

記録装置

2. 特許請求の範囲

カットシートフィーダを内蔵し、その送給ホルダにカットシートが累積した状態で装填され、圧板部材を前記送給ホルダに設けた分離爪に向けて偏倚させることにより装填された前記カットシートが送給可能に保持され、送給ローラにより送出された前記カットシートが記録済後排出されて、排出サポートにより支持されるようにした記録装置において、

前記送給ローラと平行な軸の周りに傾倒自在とした前記排出サポートと、

該排出サポートを前記送給ホルダとは反対の側に傾倒させたときに前記圧板部材が前記分離爪から引離されるように動作する手段とを設けたことを特徴とする記録装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は記録装置に関し、詳しくはカットシートフィーダを内蔵し、その送給ホルダから送給ローラによりカットシートが送給され、記録済のシートが排出サポートを有するスタッカに排出されるようにした記録装置に関する。

〔従来の技術〕

最近ではカットシートフィーダが多く利用されるようになり、カットシートフィーダを内蔵した記録装置の需要がのびてきている。

しかしながら、この種の記録装置においては、専用のカットシートフィーダを具えたものとは異なり記録装置の内部に送給部が設けられており、その送給ホルダにカットシートを装填するのがまことにやりずらく、特に幅の広いサイズのシートを装填する場合は排出サポートのかげに分離爪が隠されてしまうので、正しく分離爪によってシートを保持させるようにするのが困難であった。

〔発明が解決しようとする問題点〕

本発明の目的は、従来の上述したような問題点に着目し、その解決を図るべく、シートの装填にあたって、排出サポートをその支持軸の周りに回動させることにより、送給ホルダへのホッパ部を広く開口させると共に、シートを送給ローラに向けて圧接させるための圧板を送給ローラから退避させ、容易かつ確実にカットシートを給紙ホルダに装填することができる記録装置を提供することにある。

【問題点を解決するための手段】

かかる目的を達成するために、本発明は、カットシートフィーダを内蔵し、その送給ホルダにカットシートが累積した状態で装填され、圧板部材を送給ホルダに設けた分類爪に向けて偏倚させることにより装填されたカットシートが送給可能に保持され、送給ローラにより送出されたカットシートが記録後排出されて、排出サポートにより支持されるようにした記録装置において、送給ローラと平行な軸の周りに傾倒自在とした排出サポートと、排出サポートを送給ホルダとは反対の側

2は排出シートサポート（以下で排出サポートという）である。しかして、カットシートフィーダを使用する場合は、第2図に示すようにまず排出サポート2を支持軸2Aの周りに矢印方向に回動させて、排出スタッカ3の背面側に沿わせた状態となし、ケース4の側板4Aに係止されるようにする。5は排出サポート2から更に上方に引出されたスタンドである。

しかして、このように排出サポート2をセットした後、送給サポート6を矢印方向に引き、排出サポート2と送給サポート6との間にホッパ部7が形成される。これでカットシートの送給状態が得られる訳であるが、いま、カットシート8をホッパ部7から不図示の送給ホルダに装填しようとする場合には、排出サポート2をこの状態から更に矢印方向に傾倒させるようにするもので、以下、第3図によってその記録装置1の内部構成を説明する。

ここで、10はブラテン、11はシート送りガイド、12はピンチローラであり、送給ホルダ13に累

に傾倒させたときに圧板部材が分類爪から引離されるように動作する手段とを設けたことを特徴とする。

【作用】

本発明記録装置によれば、排出スタッカと連続した状態に保たれる排出サポートを、シート装填時には反対側に傾倒させることにより、ホルダへのホッパ部を広く開口させ、同時に排出サポートの作動腕により圧板を運動させて送給ローラから解放し、退避位置に保持させることができるので、安心して装填動作を実施することができる。

【実施例】

以下に、図面に基づいて本発明の実施例を詳細かつ具体的に説明する。

第1図および第2図は本発明記録装置の内蔵されたカットシートフィーダ使用によらず連続紙による記録が行われる場合、およびカットシートフィーダによるシート送りが可能な状態をそれぞれ示し、これらの図において、1はその記録装置、

積された状態に保たれるカットシート8からその上面に位置する1枚のシート8Aのみが送給ローラ14によって送給され、この図に示すようにブラテン10に保持されて不図示の記録手段により記録がなされ、排出機構15によって排出スタッカ3へと排出される。なおこの場合、排出サポート2は実線で示す位置に保たれており、排出されたシートを排出サポート2によって支持することができる。また、2点鎖線で示される排出サポート2は第1図で示した状態に保たれるときの位置である。

更にまた、本例では先にも述べたように、送給ホルダ13にカットシート8を装填する場合、排出サポート2を前方、すなわち本図で反時計回りの方向に傾倒させるようにするもので、傾倒させた場合は1点鎖線で示す位置に保たれる。そこで、この位置にまで排出サポート2を回動させると、排出サポート2に設けた作動腕2Bによって中間レバ部材16を実線の位置から1点鎖線の位置にまで回動させることができる。

しかしここで、この中間レバ部材16は第4図に示すようにその回動動作により他端部で係合レバ17を運動させることができる。すなわち、第3図において、送給ホルダ13は圧板部材18を摺動自在に保持しており、通常のカットシートフィーダ使用状態ではばね19のばね力により圧板部材18を分離爪20および送給ローラ14に向けて偏倚させている。なお、第3図に示すように半月型の送給ローラ14が使用される場合はその平坦部にカットシート8の上面が直接接触しないよう圧板部材18の上方への偏倚動作を規制するストップ（図示せず）が設けられる。

そこで、いま上述したように排出サポート2の反時計回りの回動動作によって中間レバ部材16を介し、係合レバ17が回動されると、そのレバ軸21が回動されることにより同軸に設けた圧板作動レバ22により圧板部材18をばね19のばね力に抗して矢印方向に押下させることができ、以て、分離爪20と圧板部材18上面との間にカットシート8（カットシートの集積体）をセットし易くすることが

以上説明してきたように、本発明によれば、排出スタッカの下流側に設けられ排出されたカットシートを支持するための排出サポートを送給ローラと平行する軸の周りに傾倒自在となし、その排出スタッカを送給ホルダとは反対の側に傾倒させたときに送給ホルダの圧板が分離爪から解放されるようにしたので、カットシートを送給ホルダに装填する際、排出サポートを上述のように傾倒させるだけで送給ホルダへの開口部が広く保たれると共に圧板と分離爪との間に十分な間隔を保たせることができ、その装填を容易に実施することが可能となった。

4. 図面の簡単な説明

第1図および第2図は、本発明記録装置のカットシートフィーダ不使用時およびカットシートフィーダ使用時の状態をそれぞれに示す斜視図、

第3図はそのカットシートフィーダにかかわる部分の一例を示す構成図、

第4図はその排出サポートにより送給ホルダの圧板部材を分離爪から解放させる動作の説明図で

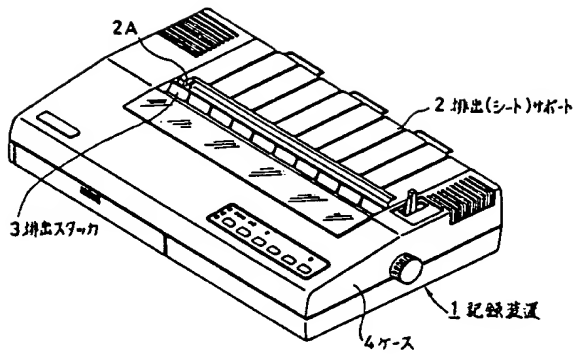
できる。しかしてこの場合、排出サポート2は第4図に示すようにその作動腕2Bに設けた突起部2Cがケース側板4Aに穿設した係合孔4Bに嵌り込むことによって係止状態に保たれることになり、ホッパ部7が十分広く開口され、たとえ幅の広いサイズのカットシートの場合であっても排出サポート2によって分離爪20が見えにくくなるようなことがない。

なお、カットシート8の装填が終わったならば、排出サポート2を1点鎖線の位置から実線の位置に戻すことによって中間レバ部材16を介し、圧板作動レバ22を時計回りの方向に回動させ、圧板部材18をばね19のばね力によって上方に偏倚させ、第3図に示すような状態でカットシート8を送給ホルダ13に保持させることができる。また、送給は従来のプリンタと同様、プリンタ自体若しくはホストコンピュータ等からの信号によりシート送りモータを付勢させることにより送給ローラ14を介して実施される。

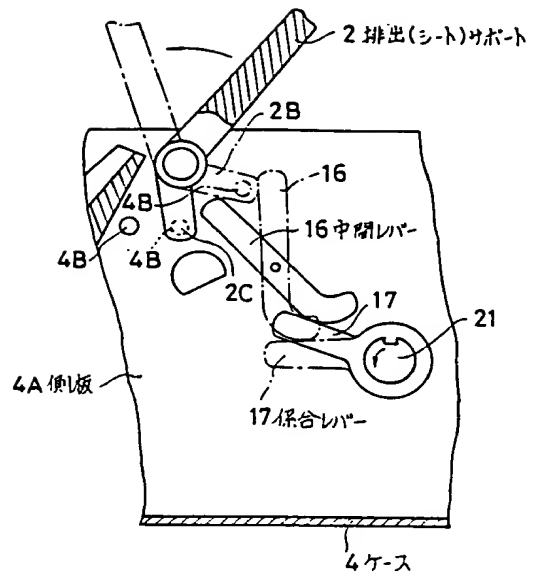
〔発明の効果〕

ある。

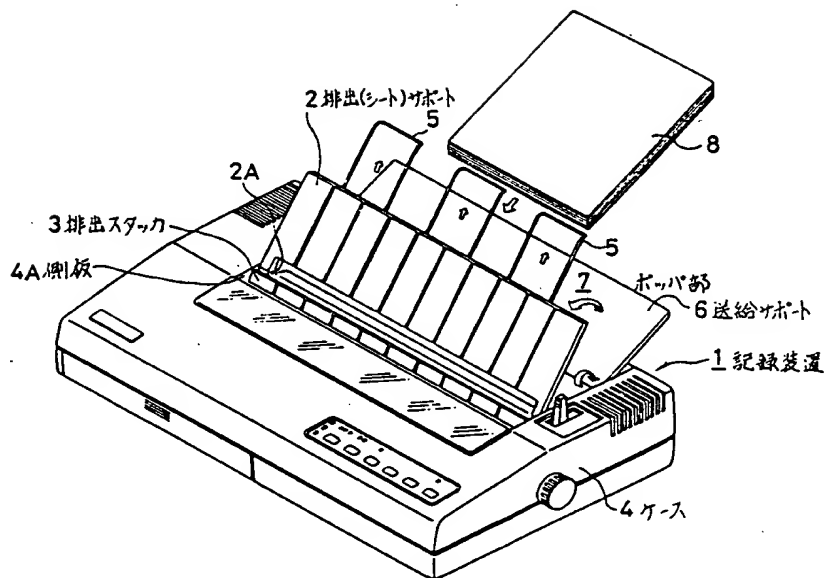
- 1…記録装置、
- 2…排出（シート）サポート、
- 2B…作動腕、
- 3…排出スタッカ、
- 4A…側板、
- 4B…係合孔、
- 7…ホッパ部、
- 8、8A…カットシート、
- 10…ブラテン、
- 13…送給ホルダ、
- 14…送給ローラ、
- 16…中間レバ部材、
- 18…圧板部材、
- 19…ばね、
- 20…分離爪、
- 21…レバ軸、
- 22…圧板作動レバ。



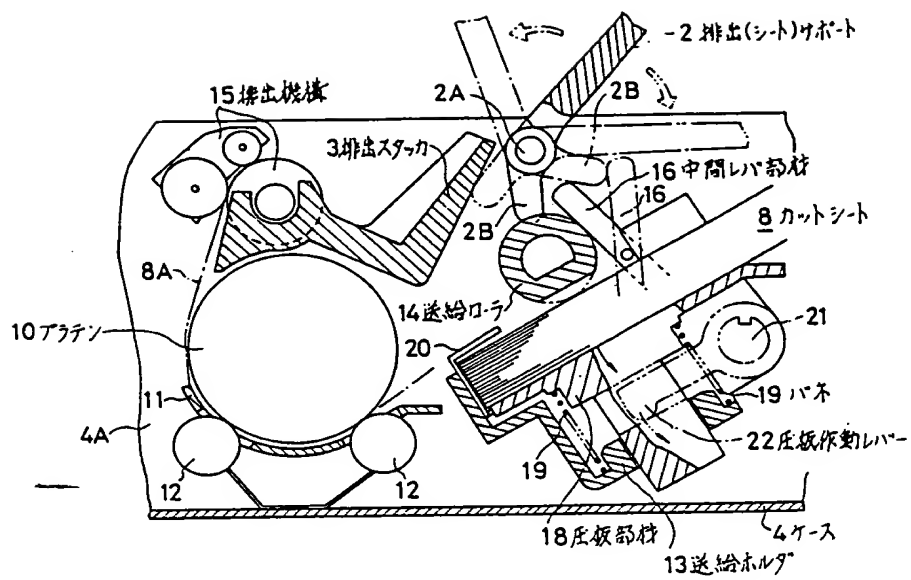
第 1 図



第 4 図



第 2 図



第 3 図